

平成22年度 すぎなみ大人塾 夜コース

はじめてのソーシャルアクション 自分らしい社会貢献の実践力を身に付ける

平成22年7月14日(水) 19時より 場所: セシオン杉並

学習支援者: 広石拓司 (株)エンパブリック 代表取締役

学習支援補助者: 手塚佳代子 NPO 法人 チューニング・フォー・ザ・フューチャー

公開講座「まちづくりのための『場』をつくる」

講演: 東京理科大学工学部建築学科 非常勤講師 杉崎和久さん

1 はじめに(学習支援者: 広石拓司さん)

大人塾(夜コース)の今年もテーマは、はじめてのソーシャルアクションということで自分らしい社会貢献活動の実践力を身につけることが狙いです。6月から始めて8回目の講座です。

- 7回までは、杉並にはどのような地域の活動や課題があるのか、どうすればいいのか等を学んで、自分は何をするのか、その意識を固める期間でした。(8月に中間のまとめ)
- 9月 12月は、地域の課題を地域の人々や仲間と話し合い、どうしたら活動の場をつくれるのか、みなさんと考えます。(ワークショップ、イベントの実施)
- 本日は、問題意識と行動を起こしていく間のつなぎをどのようにしてやっていくのかを、練馬まちづくりセンターで経験を積まれました杉崎和久さんに話していただきます。

2 「まちづくりのための『場』をつくる」 講演者: 杉崎和久さん

1) 杉崎和久さんの自己紹介

練馬区で学生時代から、まちづくりに関わり、そのまま「まちづくりセンターの」スタッフとして、コーディネート役をしてきました。

私の専門分野は、都市計画で、行政分野では市民の考え方を早くから取り入れている領域です。身近なまちをよくする、暮らしを豊かにするという目的をもっている練馬まちづくりセンターに勤務していました。センターで、約5年間、今年3月まで活動していた時の経験ですが、行政は公共的な意味があれば、市民が主体的に活動する際、行政はできるだけ支援をするという体験を数多くしました。

杉並区との関係では、1999年頃に「まちづくり博覧会」に参加したり、ボランティアセンターの事業のお手伝いをしました。ボラセンの事業では、現在のあんさんぶる荻窪を建設するとき(杉並・練馬・豊島合同のボランティアセンター主催)。

練馬区では市民が主体的に地域を良くしたいと考えるなら、区側のその活動を支援する体制をつくらなくてはならないと練馬まちづくりセンターを立ち上げました。

2) まちづくりとは？

私が大事と思うことは、地域での生活が今より心地よく、豊かさを感じる、地域に誇りを持てるような形にするために持続的な活動を行うことです。「まちづくり」は、こうでなくてはいけないというような定義はないと考えています。特に地域に誇りを持てるようにしたい、そのためには何をするのか、この地域が好きだと言えるような活動をするのを重要とします。そして、この活動の担い手は「誰」なのかも大事で、「誰」とは地域で生活する人々、地域で学び人々、そこを通過する人々等幅広くとらえる必要があります。いずれにしても、どんな活動でも課題を解決していく過程が大事と考えています。

そうすると発意がたとえ行政側でも、そこに住んでいる人々、地域の人々が主体的に関わり地域を良くする気持ちが底辺にないとうまくいかないと考えています。

3) まちづくりと「場」活動の実際 (DVD 放映)

ア) チームかけだし石神井

退職後、練馬のまちづくりセンターのお祭りに参加、車椅子に実際に乗って、車椅子を日常的に活用している人々が、どのような思いをしているのかを体験する活動に参加した。なかなか仲間が増えないことに悩み、世田谷までヒントを得にいったこともありました。お祭りの時、その体験談を披露した際、久保川さんにめぐり合い、さらに介護体験をするようになる、いきいきとした活動を紹介します。

IT企業に勤務していた方は、同じくブログをいくつも持っている人と一緒に勤務時代に養ったPC知識と技術を地域の人々にボランティア活動として教えた。楽しいボランティア活動の中から「ひと」とめぐり合えることが出来た。そして、商店街の空き店舗を「場」にしたIT教室を実践している。

<コメント>

- ・ボランティア活動に最初に参加することは勇気・度胸がいる。(最初の第一歩)
- ・ボランティア募集のお知らせを見て、一度参加すると抜けだせなくなると危惧抱く。(最初の第一歩の仕組みづくり)
- ・自分にあった活動を見つけることを見つけることが難しい(楽しくない活動は長続きしない)・ボランティアをやっていく過程で、気の合う人とめぐり合うことが出来る。

機会を求めて主体的に動かないと幸運は来ない。

イ) ショップ学園通り

●区は、地域福祉計画をつくり地域ごとに福祉課題を解決するための懇談会を組成し、地域の福祉課題を、地元の区民と地域交流しながら見出していこうと考えた。

●計画策定後、懇談会の一員である大家(町会長)さんの協力を得て地域交流の『場』をつくる。「場」に入れる椅子机等の購入を助成金で調達、障害者施設、地域のボ

ランティアが、都合のよい曜日に活動の場として活用する。

●その後、地域の人になんでも持ち寄るショップ（憩いの広場）を、職場体験の場として障害者の方々も利用するようになる。（作業所のクッキー、コーヒー提供）お互いに声掛け合い、ノーマライゼーション実践の場ともなり、福祉のまちづくりを実現している。

●情報相談広場（月曜日）を実践している。

●食事前後の口腔をケアする大泉学園町の「食のほっとサロン」は毎週金曜日に活動を実施していたところ、商店街の空き店舗（町会長所有）を活用して、食事前後の口腔ケアと歯磨き活動を始める。（一人暮らしの給食サービス）

<コメント>

・行政の期待も高まり、幅広い活動が実現され、活動の持続性が生まれる。

4 まちづくりの始め方（どこからはじめる）

●ひとりから・・・チームかけだし石神井の粕谷さんの事例

●仲間と一緒に

●組織（チーム）の一員として・・・各担当が出来る

●他のチームと一緒に・・・一緒に勉強会をやる

●まちの人たちと一緒に・・・サークル活動と違う点 声を聞かないといけない

●まちを超えて人達と一緒に・・・横断的なテーマが必要 出会う、つながる（握手）、ひろがる（簡単ではない）

<コメント>

・地域には、価値観も異なる人たちによって構成されているので、「私の一番」「私のいいこと」の内容が違うとを理解すること。

5 まちづくりにとって「つながる」とは

1) 地域には、いろいろな思いの人々がいる。そして、その思いは外に人々にも理解していただかないと思いは広まらない。

2) 何かをしようとする「資源、資金等」が必要（会議室、消耗品等の経費）で資源等を獲得しないと活動出来ない。資源を獲得するためには賛同者を増やす。

そのために活動理念・規範・活動内容等の説明が必要になる。

社会的に意味のある活動をしたい、自分が貢献できることを訴える、だから一緒に活動しましょうと共感を得ることを話すこと。

3) 例えば、私は、活動に参加しないけど、資金を寄付しますという人がいますとします。

どのような目的？、なんの為に活動しているの？

この質問に答えることが出来なければ活動につながらない、賛同していただくために活動をコンパクトに表現することが大事です。

出あう 語る、聞く 共感する つながる ひろがる

- 4) 個人でも企業でも、資源（時間、手間、資金等）は限られています。思いが一緒、楽しそうなイベントなので参加してみたい、自分が大事と考えているものと同じ等、資源を費やすことに値するのか、共感性とそれに伴う行動が、課題となります。
- 5) 活動をしていく中で、どうして自分の活動を理解してくれないのかと内向的、自己中心的な活動になります。そこで必要なのは、「自分はどのようにしてここにいるのか？」という振り返りです。せっかく活動するので、自他とも楽しい、わくわくする、刺激的等な活動になっているのかを自問自答することが重要となります。

6 まちづくりのための「場」とは

1) 実際の活動を行う「場」

出会えて、伝えあう、一つにつながることが出来る「場」が大事です、共感し合うからお互いに心地よい、だから、次に何か生み出すことが出来る、このような実在の空間が「場」となります。

●コミュニケーションをおこなう「場」

コミュニケーションがあって、共感性が生まれます、それなら、コミュニケーションを、いかにして行うのか、コミュニケーションを行う「場」はどこがいいのか？

●共感し合えるから、何かを生み出していこうという意識が大事です。行動、活動、過程、成果等が出てくるのが望まれます。

2) いろいろなまちづくりのための「場」

●実在の空間

- ・商店街の空き店舗を使った地域拠点、住宅を使った活動拠点、空き地を使ったコミュニティガーデン、公園や道路などの公共的空間

ア) 横浜ドリーム・ハイツの事例

団地の住民が高齢化して、団地の1階の店舗が空きだした。空き店舗を活用して、一人暮らしの人々に食事を提供する場をつくった。空き時間には、地域の人が集まる場となり、勉強会・イベントなどを行う。掲示板には様々な活動が掲載されている。

イ) 岡山の空き店舗活用事例

建築士が集まり、地域貢献が出来ないかを検討した。ユニバーサルデザインを紹介、実現する事務所をとして空き店舗を活用し住宅改修の相談を受け付けている。

ウ) 練馬のつくりっ子の家

障害者の就労の場としてスタートし、地域の人、ボランティアの人が集まる場となる。

エ) 練馬の某ギャラリー

永年経営してきたギャラリーを地域のために活用できないか検討中となっている。

オ) 草加市の道路のボードステージ空き地

行政所有に空き地空間を市民の為の地域情報やイベント、パフォーマンス用の舞台にして活用。

カ) 横浜市のバス停の空き地

防犯上、危険な急斜面の危険な処を活用して、ちょっとした景観をつくる。掲示板に様々なニュースが掲示されいろいろな活動が生まれる。横浜市の資金を活用する。

キ) 京都府亀山市の冒険遊び場

耕作をしていない農地を、近隣の人たちが、呼び掛けて子どもの遊び場づくり、解放している。(冒険遊び場)

<効果>

- ・活動の場があると成果・活動が実に見える
- ・安定的な活動を担保 人が集まりやすい 新しいメンバーを得やすくなる

<課題>

- ・維持・運営するためのコスト(お金、マンパワーなど)

●ICTによる空間(電子的空間)

- ・メーリングリスト、地域 SNS やツイッター

<効果>

- ・解説・維持に関わるコストが少ない・・・運営ルールを決めるべき

<課題>

- ・運営のための高いスキルが必要

●イベント(一般的な空間)

- ・講演会・学習会、ワークショップ(つながるためにどのような人々に集まるのか作戦が必要)・フィールドワーク(まちあるき・参加しやすい)
- ・カフェイベント・サロン(1日、2日短期に借りる)・・・双方向型

ア) 茅ヶ崎の砂浜美術館

まちの景観を考えようグループがTシャツを砂浜に広げて見せる活動

イ) 豊島区雑司ヶ谷の古本

ウ) 京都の町家公開イベント

地域の人、観光客にみて町やの生活、歴史等を理解させる

<効果>

- ・運営コストが少ない

<課題>

- ・不安定な活動になる

- ・周知が難しい

7 「場」の作り方

1) 魅力的な共感する「場」をつくる

- 自分たちの活動の魅力を伝える企画

- 初めてでも参加しやすい「場」・・・たくさんの人が来ていただくために呼びかけから始まる

- 「出会う 語る・聴く」が出来る「場」・・・話が出来場所とプログラム

2) 魅力的な「場」であることを伝える（伝え方は重要）

- 薄く広く伝える方法（区報やNPO関係広報紙） 効果は薄いけど意外な出会いがある

- 関心のある人にピンポイントに伝える方法（関係するML/SNS,関係するイベントでの告知、口コミ） 確実に伝わる、後は企画の魅力次第

8 はじめての一步は「参加」から

- 自ら「場」をつくらなくてもよい方法 他団体等が企画する「場」(イベント)に「参加」して活動を伝える（交流イベント、フリマ）

9 気の合う仲間とじっくり活動したい

- サークル活動か？ 社会的な役割を担う「まちづくり」活動か？

意識し選択をする。

- 出あい、多様性（違い）への「気付き」、変化を楽しむことが出来るか
意外な考えや質問、多様性等を楽しむことが出来る方は、まちづくり活動に向いている。

<広石拓司さんのコメント>

- 何んのための活動、イベントなのか？

せっかく企画を立てても、人を集める、収容する席、企画の流れ等の準備に追われて、自分たちの伝えたいことを忘れてしまう。冷静に、自分たちは何のためにこの企画をしたのかを、振り返ることが大切です。

質問コーナー

Q1:集客に苦労している

- 2, 3人の仲間を見つける努力をする。（一緒にやる仲間）

- 活動の過程を大切にしながら（サービスの内容を確認する） 会合に行き仲間を

見つける。

- ニーズ等のマーケティングをする

Q2：まちづくりの定義

- 地域で暮らす人、その中で、忙しいサラリーマンを対象にする事業を考えた時、その人たちを巻き込む方策はあるのか
- 自分がサラリーマンであった時、自分の生活を振り返る、課題は何であったのか等を考える。参加できなかった課題は何か？
- 子どもと一緒に出かけるイベントなら、サラリーマンでも参加できる。
このような事例からヒントを得る。子ども戸奥さんが魅力的なプログラムを考えること。

Q3：集客とコミュニティービジネスについて

- 地域の人々に打ちどころの層を狙うのか、その層はどのような暮らしをしているのか等を確認する。ターゲットを絞ること。

Q4：まちづくりと文化の側面について

- まちづくり側から考えると、文化・アートは人の心を揺り動かす力、人を結ぶ力があるので非常に魅力的な要素です。

Q5：コストとイベント

- イベントをする際、助成金を得る必要がある。助成金を得るためには、企画力が必須の要件です。そうすると元に戻る形になるが、誰のためのイベントなのか、なぜ資金が必要なのか等を自問することから企画が生まれる。
- 誰のためのイベントなのか
企業的是発想なら、ターゲットを絞って、ターゲットに効果的な企画を考える。社会的起業的発想に立てば、今、少なくとも大事な活動だから実施するということもある。そのマテの手段方策が企画となる。
- 機会を逃さないために
自分の活動を普段から広く伝えておくこと。聞いた人は覚えているので、意外な人、意外な方面から「結び」が飛び込んでくることがある。